

## ディスコグラフィアー掲載

### ディスコグラフィアー 【2014No.15】 (HP 掲載)

分類：CD

作曲家： C.P.E.バッハ他

曲名： ソナタ変ロ長調 Wq.51-2 他

演奏： L.U.Mortensen 他

発売： claves records

No. : CD 50-9908



#### 概要：

この CD は、先のディスコグラフィアー 【2014No.14】 で紹介したスイス・バーゼルの **Basel History Museum** で記念にと買い求めてきたものです。

ネット上で検索したところでは、この CD はスイスに生まれたヤーコプ・シュティルネマン (1724-1790) が 1777 年にリヨンにいたときに製作した楽器を用いて、実力派演奏家 3 人が競演した 1998 年の録音です。上掲右の写真は CD に掲載されていたものです。

C.P.E.バッハの、ソナタ変ロ長調 Wq.51-2 (1760)、ソナタニ短調 Wq.51-4 (1758)、ソナタヘ長調 Wq.51-5 (1759) は L.U.Mortensen の演奏、F.クープランの「クラヴサン奏法」中の前奏曲第 6 番ロ短調とクラヴサン曲集第 4 巻第 27 組曲ロ短調は A.Galle の演奏、J.P.ラモアのクラヴサン組曲より第 2 組曲 (1724) は、C.Jacotte の演奏で録音されています。

L.U.Mortensen はコンチェルト・コペンハーゲンの演奏を聴いており、C.Jacotte はグリミオーと組んだバッハのヴァイオリンとチェンバロのためのソナタのアナログと CD でお馴染みです。

EMT981 で再生しましたが、同じ楽器を 3 名の演奏家が競演するという点で、それぞれの演奏スタイルの個性があって興味深いものです。

また、通例日本で聴く機会のある復刻チェンバロと違って、表現力が大きく、良く響いてダイナミックな演奏が可能で、まるで現代ヴァイオリンとストラディヴァリウスの違いみたいで、素材の木材の違いなのか、枯れ具合の問題なのか興味あるところです。